

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
統計学	前期	2年次	1	30	渡邊

**授業概要**

情報化社会及び情報技術の進歩に対応できるような情報伝達、処理、貯蔵について学習し、基本的なデータの整理、統計資料の解釈ができるような基礎的能力を養う。

回	事前学習	授業内容	授業方法
1		統計学入門 1)統計学とは (1)統計学を始めよう (2)統計学と医療・看護のかかわり 2)記述統計と推測統計 (1)記述統計   (2)推測統計 3)調査・研究と統計学 (1)問題の設定   (2)情報収集   (3)調査・実験	
2		統計データの種類とまとめ方 1)統計データの種類 (1)質的データ   (2)量的データ 2)統計データのまとめ方 (1)質的データのまとめ方   (2)量的データのまとめ方 3)統計データのグラフ表示 (1)グラフの利点と作成   (2)各種グラフの特徴	
3		確率と分布 1)確率 (1)単一事象の確率   (2)複合事象の確率 2)順列・組み合わせ 3)確率分布 (1)確率を関数とする考え方   (2)離散型データの確率分布 (3)連続型データの確率分布   (4)標本分布	
4		母集団・標本と推定 1)母集団と標本 (1)母集団   (2)標本 (3)偶然誤差と系統誤差(バイアス) (4)中心極限定理と大数の法則 (2)推定 (1)点推定   (2)区間推定 (3)推定のための標本の大きさの検討	
5		各種検定 1)検定の基礎知識 (1)検定とは (2)検定の手順	
6		各種検定 2)1群の標本の検定 (1)区間推定による平均の検定 (2)母平均の検定 (3)母比率の検定	
7		3)2群の標本の検定(パラメトリック検定とノンパラメトリック検定) (1)2群の平均長の検定(t検定) (2)2群の分散の日の検定(f検定) (3)2群の順位和の差の検定 (4)中央値検定	
8		4)3群以上の標本の検定 (1)3群以上の平均長の検定(一元配置分散分析) (2)3群以上の順位和の差の検定 (3)二元配置分散分析	

回	事前学習	授業内容	授業方法
9		5)比率(割合)の検定 (1)2群の母比率の検定 (2)カイ二乗検定 6)相関関係数の検定 (1)相関分布 (2)回帰分析 (3)相関係数・回帰直線の検定 (4)重回帰分析 (5)ロジスティック回帰分析	
10		情報の定義と特徴 1)情報とはどういうものか (1)情報とはなにか(データ・情報・知識) (2)情報における期待と価値 (3)より良い意志決定に必要な情報 2)情報の特性 (1)真の値と誤差 (2)バイアス (3)情報の量と質	
11		情報化社会 1)情報化社会の成立 (1)情報化社会とは (2)インターネットとは (2)情報通信技術(ICT)と活用 (3)情報化による社会の変化 (4)情報のクラウド化・モバイル化・ソーシャル化 2)情報化社会で求められること (1)誰でも情報を活用できる社会に(情報格差について) (2)情報化社会でより良く暮らすためのスキルやルール ①情報化社会に起こりうる問題 ②情報化社会におけるリテラシー (3)助け合いのネットワーク(ソーシャルキャピタル)	
12		情報倫理 1)情報倫理とは 2)知的財産権(著作権・人格権・財産権) 3)プライバシー権(肖像権) 4)医療における情報倫理と守秘義務 医療倫理 1)医療倫理の4つの原則 2)看護倫理 診療情報の開示 1)診療情報とは 2)診療情報の開示目的と方法 3)診療情報提供の指針 4)レセプトの開示	
13		個人情報の保護 1)医療・看護における個人情報とは 2)医療従事者の義務 3)個人情報の提供について注意が必要なケース 4)個人情報の開示 個人情報の利用の仕方 1)臨地実習に於ける患者・市民情報の利用 2)研究における個人情報保護	
14		保健統計の基礎(統計の種類と統計の意味) 1)おもな統計資料 (1)国の統計 (2)地方自治体の統計 (3)世界的な統計 2)人口静態統計 (1)人口に関する指標 (2)労働に関する指標 (3)世帯に関する統計	
15		保健統計の基礎(統計の種類と統計の意味) 3)人口動態統計 (1)出生に関するおもな指標 (2)死亡に関するおもな指標 (3)婚姻・離婚に関するおもな指標 4)その他のおもな調査 (1)国民生活基礎調査 (2)患者調査 (3)国民健康・栄養調査 (4)食中毒統計・感染症発生動向調査 5)生命表	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:統計学 授業資料		

授業科目 文化人類学論	開講年次 2年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 喜山
----------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

### 授業概要

異なる文化における①人間と人間の関係、②人間とモノ(衣食住など)の関係、③人間と環境の関係などの側面について知識と理解を深め、人間が生み出した〈文化〉の多様性と普遍性の問題を考える。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1		①文化とは何か、 ②文化の相対性を中心に文化人類学の目的と方法	講義	「違和感」を手がかりに文化について考える
2		「同時代性の認識」という視点から日本と異文化の関係について考える	講義	復習
3	フィールドワークの意味について考える	現地、現場主義の「フィールドワーク」の重要性について	講義	復習
4		文化の多様性とグローバル化の動きについて	講義	復習
5		人間関係－親子と親族－(1)について	講義	自分の「家族」について家族史をまとめる
6		人間関係－ジェンダーとセクシャリティ－(2)について	講義	復習
7		環境と多様な人間の生業形態について	講義	日本の〈島国幻想〉について考えてみる
8		環境と文化を通して共生する人間	講義	復習
9	ブラジル音楽について調べる	音、モノ、身体技法の文化	講義	復習
10		食物、調理と文化的分類体系	講義	復習
11		文化の「病気」観	講義	復習
12		「病」「健康」と呪術＝宗教的世界	講義	復習
13		「科学技術」をめぐる社会、文化的な問題	講義	BSE、遺伝子組み換え作物について調べる
14		現代世界の抱える諸問題と文化人類学(1)	講義	復習
15		現代世界の抱える諸問題と文化人類学(2)	講義	復習
評価方法	出席数・学習態度・レポート・テストで評価する			
教科書	講義資料、プリントを配布し、それを基に授業を進める。			

授業科目 癒し	開講期 2年次	開講年次 後期	単位数 1	時間数 10/15	講師 篠原・笠原 久保田
------------	------------	------------	----------	--------------	--------------------

授業概要					
現代の社会の中で心と体の両面の健康が必要である。癒しの持つ力は心身ともに持続的・恒久的・継続的な安らぎの効果をもたらす。実践に役立つ癒しの効果を理解し、方法について学ぶ					
回	事前学習	授業内容	授業方法	講師名	
1	食に関する解剖生理を学習する	食と癒し ①「食べる」ことの意義 ②食品の持つ機能・役割 ③食欲のメカニズム ④食を楽しむ	講義	篠原	
2	癒しとは何かを事前に調べる	食と癒し ①心を癒す食事 ②心を癒す眠りと食の関わり	講義	篠原	
3		食と癒し ①命をつなぐ食事 ②心を癒す食事のとり方	講義	篠原	
4		アロマセラピーと癒し ①アロマセラピーとは何か ②芳香浴のためのルームフレグランス作り	講義 演習	笠原	
5	皮膚の解剖・生理を学習しておく	アロマセラピーと癒し ①足浴法、手浴法、湿布法 ②トリートメントオイル作り	演習	笠原	
6		アロマセラピーと癒し ③座位および仰臥位でのハンドトリートメント	演習	笠原	
7		「大切な人を心身ともに癒せる方法を発見する」 癒しの授業で、習った知識や技術を用いて、自分の大切な人を癒す方法を発見する	演習	久保田	
8		「大切な人を心身ともに癒せる方法を発見する」 自分の大切な人を癒す方法を実践した結果の発表	演習	久保田	
評価方法	出席状況、授業への参加態度およびレポート内容を総合的に評価する				
教科書	講師の配布する資料やプリント				